

# 概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 道徳部会

**テーマ** 『生徒が自ら主体的・協働的に学び合う道徳の授業を目指して』

## 提案概要

今回は学習指導要領の改定案を受けて、教材を読み、感想を話し合うだけの道徳の授業から、生徒が「自分の頭でしっかりと考え、また他者と協働しながらよりよい解決策を生み出す力」の育成を目指した授業への改善や実践に取り組んだ。

授業は「二通の手紙」（私たちの道徳）を題材として行い、活動のなかで生徒が互いに「共有しあい」「学び合う」ことのできる、「協調学習」や「アクティブラーニング」の視点からの改善や具体的な取組を考えた。題材をどのように活用するかは大切なところであるが、アクティブラーニングを引き起こすための資料選びの手立てとして、「生徒自らが問題解決したくなるような題材」「一人では解決できない問いを含んだ題材」「よく考えれば自分なりの意見がもてるようになり、かつ、自分とは違う考えを組み合わせるとより良い発想に到達できる題材」の3つのポイントが提示された。また、授業で意図的に協調学習を引き起こすための手立てとして、「知識構成型ジグソー法」を利用したグループ活動を取り入れた。

「知識構成型ジグソー法」とは、生徒が一人ひとりの違いを生かして、各自が自分なりの考えを深め、学んだ成果の適用範囲を広めていけるグループ学習法である。おもな活動の流れは次のようになる。

- STEP 1 自分の考えを書く
- STEP 2 グループごとに異なった設問について考える（エキスパート活動）
- STEP 3 メンバーを入れ替えて意見を交換・統合する（ジグソー活動）
- STEP 4 発表しあい、多くの意見を共有する（クロストーク）
- STEP 5 一人になって考える

授業では、ジグソー法を用いた活動を通して「法やきまりの意義」について多面的・多角的に考えさせ、議論させることによって考えを深めさせた。そして、法やきまりの意義に気付かせ、それらを守ろうとする実践意欲を育てることをねらいとした。

## 質疑概要

- Q 「知識構成型ジグソー法」を取り入れて実践した他の題材があれば教えてほしい。
- A 神奈川県版道徳資料集「きらめき」を使って授業をしたが、やりやすいものが多いと思う。しかし、価値項目がはっきりとしている題材はやりにくいと思う。  
新聞のコラムなど新聞社によって切り口が違う内容について、ジグソー法を使うとおもしろい。
- Q ジグソー法ではなく、ディベートなどで話し合いをさせたことがあったが、最後のまとめが難しいと感じた。今回はどのようにまとめたのか教えてほしい。
- A 価値のおしつけはよくないので、机間巡視をしながら生徒の感想をチェックし、主題に沿ったものを発表させて、「普段の生活でもルールを意義を考えてみよう」と投げかけて終えた。
- Q グループで異なる2つの質問があるが、意見交流した時に質問の内容的に片方（ねらいとは逆）に意見が偏るのではないか。
- A 資料には内容項目（法やきまりを守る）を載せずに配付したが、最終的には7：3の割合で「ルールを守るべき」という考えの生徒が多くいた。

その他にも、「ジグソー法をぜひ取り入れてみたい」や「ワークシートで記録が残ることで、評価にも活用できる」などの、感想や意見があった。

## 研究協議概要

- 【協議の柱】 1, 生徒が自ら主体的・協働的に学び合う道徳の授業実践について  
2, 道徳の授業における評価方法の工夫・改善について

※ 5～6人 × 6グループに分かれて協議を行った。

### 【協議内容】

〈 1について各校での取組や意見 〉

- ・役割を入れ替えて、ロールプレイで実践している。
- ・セリフなどを隠して資料を活用し、自分たちで考えさせる授業を行っている。
- ・モラルジレンマの活用。
- ・4人班をつくり、賛成・反対で意見交換させる…他教科でも同様のシステムを用いて実践している。
- ・絵を描かせる作業を入れる。
- ・動画・マンガ・新聞の投書などを活用した授業を行っている。
- ・熊本地震の支援の在り方について考える（復興宝くじ・自分たちでつくった支援ボトル）。
- ・修学旅行が広島なので、偉人について知る授業（イチローの小6の時の作文などを活用）。
- ・「きらめき」の発問を対立するように変えて討論させる。
- ・自分の意見や気持ちを示す小道具（円グラフ・数直線に付せん）を使い、意見の変化が分かるようにする。
- ・この題材は「ルール・きまり」についてのものなので、それぞれの立場はあるが「主題」についてより深く考えさせるものにしていけるとよい。法のもとに生活していることを学ばせることができていたか。
- ・心情的には理解できるが、ルールやきまりは守らないと・・・というところに話をもっていくことが難しい。
- ・「学び合う」授業にしていくにはテーマの設定・教材選び・発問が難しい。

〈 2について各校の取組や意見 〉

- ・教科化に向けて、ワークシートを授業ごとに記録し、1年間保管して評価の材料としていくようにしている。
- ・評価に関わらないと（数値化）、やる意味がないと生徒たちは捉えないか。
- ・価値項目に向かわせることが押しつけにならないのか。
- ・オープンエンドで「どちらも大事」自分の意見がしっかり言えることが大切だと思う。価値の押しつけにならずに終わってよいのではないか。
- ・主題のねらい（価値項目）と考えの押しつけのバランスが難しい。

〈 その他 〉

- ・学年単位で取り組み、曜日を決めて教材研究を必ず行っている。
- ・理解はしても行動に移せないという課題をどうするのか。

## まとめ概要

数年後、子どもたちを取りまく社会は、将来の変化を予測することが困難な時代、簡単に「答え」が見つからない時代といわれている。そんな未来を考えたとき、子どもたちが、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生をつくり出していくことが重要であり、学校教育でもそうした力を培っていくことが求められている。

そのためにも、「道徳」の学習で、自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と論議を重ねて探求し、お互いに納得できる解を得るための資質や能力を育てることが大切なことである。この「道徳」において育むべき資質や能力を私たちが理解すること、共有することが、今の「道徳」の教科化に向けて最も必要なことである。

また、子どもたちが迷うような課題や考える視点を設定し、お互いに悩んだ末、考えた末、自分の納得できる答えを導き出すことができる授業をいかに作りだすことができるか、教師の力量が求められている。